

合川中 山田町

被災地に まとも火ともす

住民多数
訪れる
仮説住宅で
激励も



まとも火に点火する合川中生徒（岩手県山田町）

北秋田市の合川中学校（小笠原茂人校長）の生徒や住民約50人が12日から2泊3日の日程で岩手県山田町を訪問し、伝統行事の「まとも火」とも、東日本大震災の犠牲者の霊を供養した。

まとも火は13日に山田北小学校の駐車場で行われた。約120坪の長さにわたって、たいていまがともされた。阿仁川の土手で行われる本番の10分の1の規模だが、暗闇に「つなぐ」の文字が浮かび上がった。

まとも火は毎年お盆の14日夜に開かれる先祖供養の伝統行事。開催に合川中も協力している。震災後は先祖とともに震災犠牲者の供養も兼ねて行っていることから、被災地訪問を望む声が地域にあった。今回は県の「子どもふるさと交流推進事業」を活用し、訪問が実現した。

週末ネイチ
クラブ体験
森吉山
鳥獣セン
北秋田市の森吉山センター運営協議会（津谷永光市長）は、17日（土）午後1時から週末ネイチャー体験教室を開設して、時間は午前10時半まで。参加は無料。申し込みは合川中。問い合わせは合川中。0188-867-8811

大きなイモに歓声

比内養護
たかのす
園児と一
緒に収穫

北秋田市の比内養護学校たかのす分校の児童と南鷹巣保育園の園児が15日、サツマイモの収穫を行った。児童と園児は春に一緒に植えたサツマイモを掘りながら交流した。

今年から行われている同校の交流活動でこの日が2回目。6月にたかのす分校前の畑に植えたサツマイモ



収穫方法を学んだ後に畑に移動。サツマイモのつるを見つけては引っ張り、掘り上げて収穫した。大きく成長したサツマイモが土の中から出てくると歓声が上がった。

期間延長で定員 超過し18日面接

青少年国際
交流研修団

北秋田市は、中国に中高生を派遣する青少年国際交流研修団の参加者募集を締め切った。定員に満たないため、募集期間を延長した結果、定員5人にに対し、8人が応募した。18日に面接を行う。

作業終了後は体育館に移動。収穫を祝って「わっしょい、わっしょい」とみこしの運行を行ったほか、蒸したサツマイモを早速味わった。

応募資格は市内の中学1年から高2で、保護者の同意が得られ、月30日に締め切った。18日に面接を行う。参加者の絞り込む。参加者の26日に予定している。